

2024年3月期 通期決算に関する主なご質問

- Q: 2024年3月期は通期営業利益を420億円と予想していたが、実績は359億円であった。約60億円予想から下振れた要因は何か？
- A: 欧州経済、特に当社グループの主要市場であるドイツで販売数量および販売価格の双方において想定以上に落ち込みが見られたためです。欧州の経済減速の影響は当面続くと見ており、先日2024年3月19日発表の通りドイツのフロート窯を定期修繕に先立ち前倒しで停止するなどの生産量の調整を含めた施策で影響を軽減する予定です。
- Q: 自動車用ガラス事業は前四半期比で増収減益となっていたが、この結果の背景は何か？
- A: 当第4四半期では、欧州では販売数量が減少および販売価格が低下し、日本ではサプライチェーンの一時的な混乱がありその影響を受けました。このような環境下ではありましたが、事業全体では価格改善交渉に進捗があり増収となりました。
- Q: 2025年3月期の通期業績予想は売上高が8,400億円、営業利益が370億円と増収増益を見込んでいるが、それぞれの事業ごとの方向感をどう見ているか？
- A: 建築用ガラス事業は欧州での販売数量減少の影響を大きく受ける見込みですが太陽電池パネル用ガラスの堅調でカバーし、自動車用ガラス事業は引き続き緩やかに販売数量が増加すると見えています。高機能ガラス事業は前年と似たような状況となると予想しています。営業利益370億円の達成には欧州の経済動向がキーとなると見えています。
- Q: 欧州経済の底入れのタイミングはいつ頃になると見ているか？
- A: 期待を込めてというところもありますが、2025年3月期の後半には回復してくると見えています。
- Q: 日本の建築用ガラス事業について、今後も原燃材料費高騰分を販売価格に転嫁して営業利益率を確保していく方針か？
- A: 2024年4月1日に配送料等の価格を引き上げることを発表しましたようにコスト上昇の転嫁を進める一方で、政府補助金を追い風に製品構成の改善などでも収益を支えています。
- Q: 2025年3月期の自動車用ガラス事業の営業利益率は、2024年3月期の2.7%から改善するか？
- A: そのように考えています。自動車用ガラス事業については価格改善交渉を進めるだけでなく、新車用、補修用ともに高付加価値製品の拡大も進めており、その効果も徐々に発現すると見えています。
- Q: 戦略投資は300億円を計画しており、前年度実績の168億円から大きく増加しているがこれはなぜか？
- A: ファーストソーラー社の生産能力拡大方針に対応するためのものではありませんが、まだ条件等を含めて検討中のものが含まれています。具体的なものは米国オハイオ州ロスフォードの既存窯の太陽電池パネル用ガラスへの転換のみです。